

平成29年7月20日
石川県健康福祉部健康推進課
課長 相川 広一
(電話)225-1435(直通)(内線)4130

石川県感染症発生動向調査における手足口病警報について

1 概要

石川県感染症発生動向調査(29定点医療機関)による手足口病患者の報告数は、第27週(7月3日～7月9日)で定点当たり6.41人、第28週(7月10日～7月16日)で定点当たり12.28人となり、警報の基準値である定点当たり5人を超え、大きな流行が発生または継続しつつあると疑われます。

報道機関各位には、県民への注意喚起についてご協力をお願いいたします。

* 警報の基準値について

警報の基準値は、大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを示します。

手足口病の流行発生警報の基準値(開始基準値)は5人以上(定点医療機関あたり報告数)と国が定めています。

(当県では、平成22年、23年、25年、27年にも警報を発令している)

2 今後の対応

県民及び関係団体等への注意喚起のため、7月20日付けで通知する。

送付先:庁内関係部局、市町、医療機関、関係団体 など

3 呼びかけ内容

- ・ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理など感染予防対策の徹底
- ・ まれに髄膜炎などの合併症を伴うことがあるため、高熱、頭痛、嘔吐などの症状がみられた場合の早期医療機関受診

※ 詳しくは、下記ホームページをご参照ください。

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kansen/index.html>

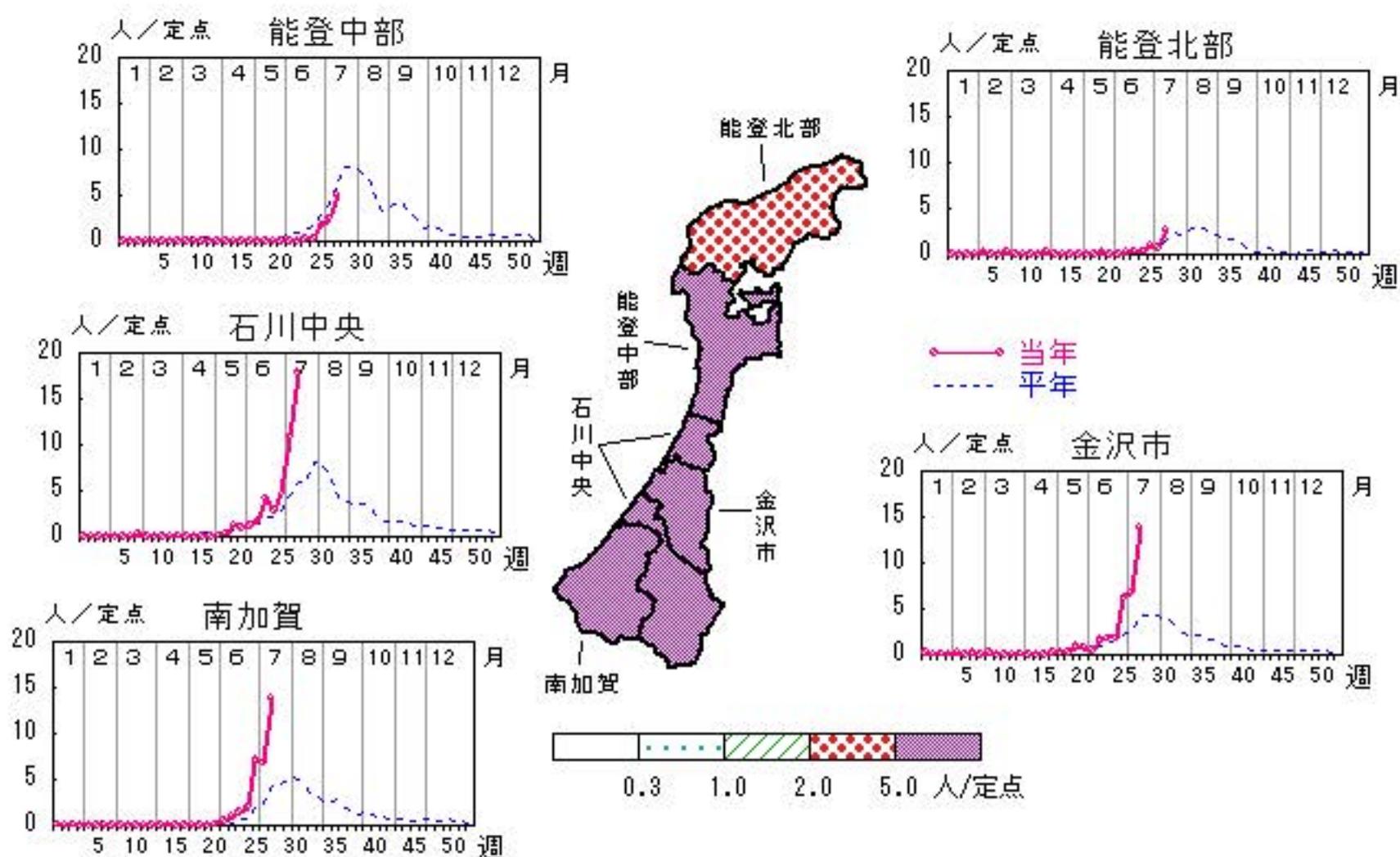
(参考) 感染症発生動向調査における手足口病の報告	本県	全国
第25週(6月19日～6月25日)	定点当たり 1.69人	2.41人
第26週(6月26日～7月 2日)	定点当たり 4.93人	3.53人
第27週(7月 3日～7月 9日)	定点当たり 6.41人	5.74人
第28週(7月10日～7月16日)	定点当たり 12.28人	集計中

手足口病

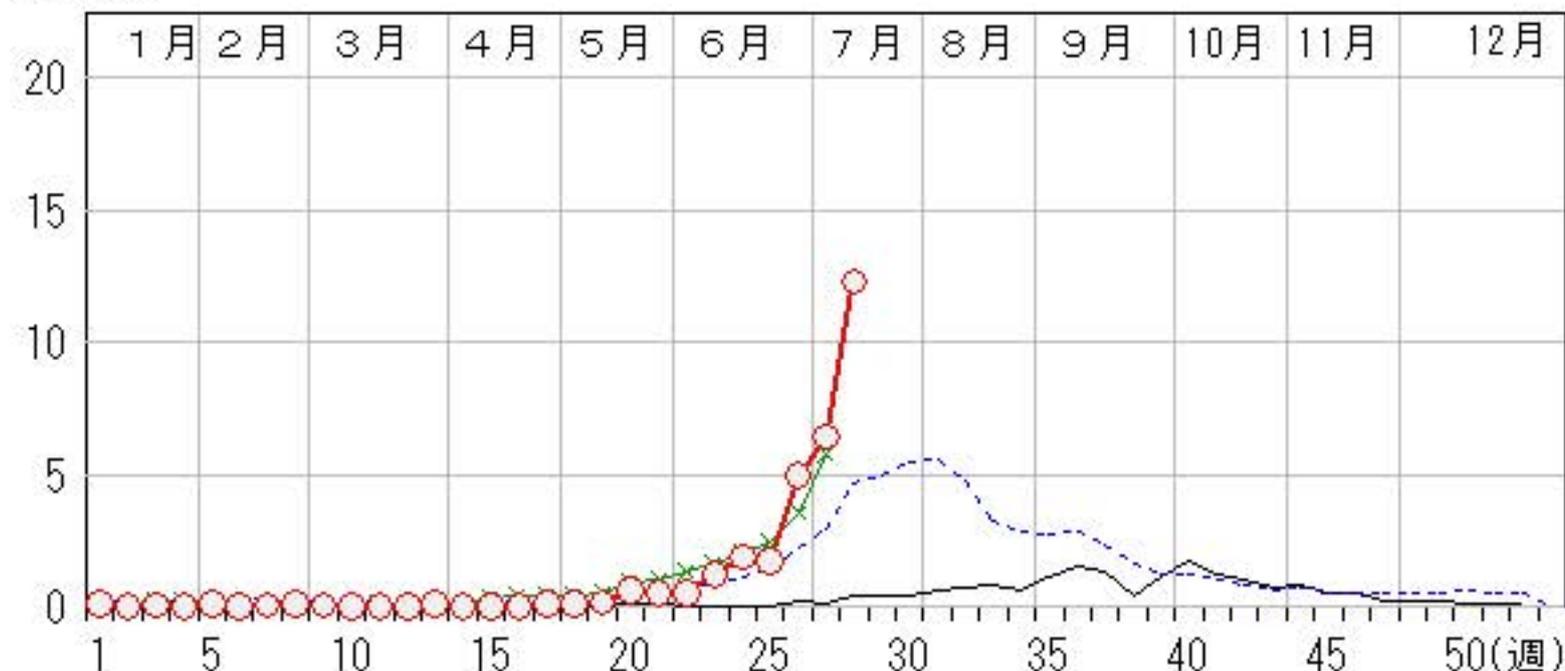
2017年24週～28週

上段: 定点からの患者報告数
下段: 定点あたりの患者数

	24週	25週	26週	27週	28週
石川県	54 1.86	49 1.69	143 4.93	186 6.41	356 12.28
金沢市	18 1.80	18 1.80	62 6.20	68 6.80	138 13.80
南加賀	9 1.50	12 2.00	43 7.17	41 6.83	83 13.83
石川中央	25 4.17	17 2.83	28 4.67	65 10.83	107 17.83
能登中部	1 0.25	1 0.25	7 1.75	10 2.50	20 5.00
能登北部	1 0.33	1 0.33	3 1.00	2 0.67	8 2.67



○— 当年(石川県) — 前年(石川県)
×— 当年(全国) - - - 平年(石川県)



手足口病とは【解説】

手洗いを
しっかりね！



いしかわ予防戦隊 うつしませんジャー

手洗いレッド

手足口病は、エンテロウイルスによる感染症で患者は、4歳くらいまでの幼児が中心です。

感染経路 感染経路としては、飛沫感染、接触感染、糞口感染（便の中に排出されたウイルスが口に入って感染すること）が知られています。一度発病すると、その病因ウイルスに対しての免疫が成立します。

症 状 潜伏期は3～5日くらいです。
口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に現れる水疱性の発疹（2～3mm）を主症状とし、乳幼児を中心に、主に夏季に流行します。
基本的には、数日間のうちに治癒します。
合併症として下痢を伴うことがあり、まれに髄膜炎、脳炎の合併があります。

治 療 大部分は発疹のみの軽い症状であり、特別な治療の必要はないと言われています。
まれに、髄膜炎などの合併症を伴うこともあるため、高熱、頭痛、嘔吐などの症状がみられた場合は、すぐに主治医に相談しましょう。

予 防 一般的な感染対策は、接触感染を予防するために手洗いをしっかりとすることと、排泄物を適切に処理することです。
手足口病は、治った後もしばらくは便の中にウイルスが排出され、また、感染しても発病しないままウイルスを排出している人もいると考えられることから、日頃からのしっかりとした手洗いが大切です。



出典：国立感染症研修所 感染症情報センター